



ケーススタディ 株式会社 フジワラテクノアート

フジワラテクノアートは1933年に設立された、醸造機械・プラントを主たる事業分野にし、年商20億から60億の間を過去20年推移している岡山の企業である。創業以来、日本酒、焼酎、醤油、味噌などの醸造分野のパイオニア企業であるが、国内市場は極めて成熟している。したがって将来どのような成長を目指すのか、または横ばいの循環需要に対応するような体制を維持するかの経営課題を抱えている。

この企業のファミリーは“女系”であり、現在の社長の藤原恵子も娘だけであり、彼女の長女は大手食品会社の営業の経験を経て、慶應ビジネススクールでMBAを取得した。そして結婚した相手の、海外留学の経験もある矢澤が霞ヶ関を辞して、次期社長としてフジワラテクノアート内で期待されている。

この次期社長に対する藤原ファミリーのさまざまな期待のもとで、圧倒的なシェアを小さな国内成熟市場で保持しているの成長戦略のありかた、事業継承をめぐるファミリーマネジメントのありかたを検討する。

青井 倫一¹ 著

¹ 慶應義塾大学大学院教授

Copyright©2009 はファミリービジネス研究所が保有する。

本ケースはファミリービジネス研究所が出版するものであり、ファミリービジネス研究所の許可を得ずに、本ケースのいかなる部分も、デジタル的、機械的、写真複写、録音、録画、その他の手法に拘わらず何れの形式によっても、複製、転送、配布してはならない。

お問合せ：

ファミリービジネス研究所事務局：〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21-1 住友不動産汐留浜離宮ビル

プライスウォーターハウスクーパース株式会社内、電話 03-3546-8480、e-mail office@fabis.jp